

金融論（第24回） 17.12.21
新しい動き2：コンビニ・バンキングなどの新しい金融手法 （安孫子）

1. 金融面での新しい動きに関する参考文献

- ・「金融システムの再生にむけて」(Lecture 7) 日本銀行銀行論研究会編、有斐閣、2001年
- ・「金融の未来学 小さなセーフティネットをめざして」翁百合、ちくま新書、2002年

2. 公的金融の見直し論

- ・郵貯・住宅金融公庫の大きなプレゼンス（個人預貯金や住宅ローンに占める高いシェア、民業圧迫論）
- ・公的金融のリスク管理面での脆弱性（運用・調達期間のミスマッチの恐れ、金融検査マニュアル？ 自己資本？）
- ・政策金融のあり方論議（民営化論<小泉首相>、国民的なノウハウ論、財政投融资制度の是非）
- ・民営化されれば新しい競争の可能性（貸出金利はリスクにみあう？ サービス低下？ 巨大金融機関の登場）

3. IT革命の波及効果

- ・インターネット・トレーディング（手数料の引き下げ、メンテナンスコスト低下、投資家の自由度向上）とインターネット・バンキング（" " " "、24時間の利用が可能）
規模の経済性が働く業務：利用件数が増えると収益があがるが・・・
- ・背景：情報システムの性能向上・価格低下（分散型システムの処理能力・信頼性の向上、価格の急低下）
情報戦略の重要性（CRM<例：属性情報によりDMヒット率に差>などシステム化、顧客の囲込み）
- ・情報セキュリティ面での課題（なりすまし、改竄、業務妨害、個人情報漏洩、電子認証の強さ等）
- ・情報開示面では、インターネットは有力な開示手段（決算短信やディスクジャーナルの掲載が一般化）

4. コンビニ・バンキングの拡大

- ・人の集まる場所へのATMの展開（銀行業の発想の転換<相互乗入れ>、コスト削減<範囲の経済>）
- ・利用時間の拡大（24時間利用できる銀行も）+ 拠点数の多さ + 利便性の高さ（買物のついで）
- ・手数料収入や個人ローン拡大への期待（手数料は十分得られるか？ 消費者金融と競争出来るか？）
- ・シナジー効果は得られるか？（コンビニ・バンキングの認知度、安全性、手数料への抵抗感等）

5. 新しいタイプの銀行の登場

- ・流通業や製造業など異業種からの新規参入（不良債権の重石のない銀行、新しいニーズへの対応）
- ・日本版マスタートラストの登場（資産管理業務の再信託を受ける信託、情報のとりまとめ機能）
- ・新しいビジネスモデルの提示（インターネット専門銀行、決済専門銀行、決済請負、消費者金融との提携）
- ・金融機能の分解の動き（クラウドで保有することが割高化、選択と集中）

6. システム運用面での新しい動き

- ・長い経験を持つシステム要員養成（少ない転職） システム面での合従連衡やアウトソース化
例）データ・センタなど電算センタ業務の下請けを図る動き（インターネット・バンキング、バックアップ業務など）
- ・カスタマイズしたシステム（自社専用のソフト） パッケージ化したシステム（汎用ソフト）
- ・大型機中心のシステム クライアント・サーバーを中心としたシステム
- ・システム分野における「選択と集中」の動き（システムコストの削減、ノウハウの多様化、激しい技術進歩）

7. 直接金融チャネルの拡大

- ・マザーズやNASDAQ ジャパンの登場（新興企業にとって上場チャンスが拡大、多様な投資が可能に）
- ・資産担保債券の拡大（ノウハウの資金調達手法の多様化、多様な資産の構築、多様な格付けの債権）
や 不動産の証券化（米国でのモーゲージ証券の重要性、不動産市場活性化の切り札？）
- ・リスク切り離しの程度に要注意（MYCALの資産担保債券の事例）

8. 新しいリスクへの目配りの必要性

- ・情報セキュリティリスク（対応策：ファイアウォールの構築、ウイルス対策、電子認証の活用、情報セキュリティポリシー）
- ・システム障害のリスク（性能評価の重要性、Y2Kの経験：コンティンジェンシープラン+データの隔地保管などバックアップ）
- ・決済リスク（システム障害や流動性不足で決済出来なくなるリスク：決済の連鎖 システム・リスクに繋がる恐れ）
- ・リスク評価・リスク管理の重要性（対応策：経営陣の関与、内部統制の強化、外部監査の活用等）

以上